

バレーボール教材におけるルールの変更がゲームに与える影響

川崎 梨子 (宮崎大学)

1. 目的

本研究では、バレーボール教材におけるボール操作に関するルールの変更が、ゲームにどのような影響を及ぼすのかを明らかにしようとした。

2. 方法

授業以外でバレーボールの経験のない女子学生12名を対象に、ボール操作に関するルールを変えた5種(①V(ボレー)-CS(キャッチスロー)-V, ②V-CT(キャッチトス)-V, ③CS-V-V, ④CS-CT-V, ⑤CS-CS-V)のゲームの様相を、通常のルール(⑥V-V-V)で行わせた場合と比較した。さらに、小学校6年生2クラスを対象に、一方のクラスには、CS-V-V(単元前半)からV-CT-V(単元後半)、もう一方にはV-CS-V(前半)からV-HT(ホールディングトス)-V(後半)へとルールを変更したゲームを行わせ、ゲーム様相の変化を検討した。なお、ゲーム様相を捉える指標として、サーブ成功率¹⁾、サーブ得点率¹⁾、サーブ継続率¹⁾、ラリー回数¹⁾、平均触球回数¹⁾、3本目返球率、レシーブ正確率、3回攻撃試行率、3回攻撃成功率、スパイク出現率¹⁾、スパイク返球率¹⁾、スパイク決定率¹⁾を用いた。

3. 結果と考察

1) 女子学生を対象としたゲームにおいて、一例として、V-CS-Vで行ったゲームでは、第2触球者のボレーによるボール操作をキャッチスローに変更したことで第3触球者へつながる本数が増え、スパイク出現率がV-V-Vよりも高値を示した。このことは、V-CS-Vの変更は、第1触球者のボールの乱れを第2触球者が立て直すことができ、第3触球者までつながることでスパイクが増加するゲームに変化することが明らかにされた。同様に、その他のルール変更がゲームに与える影響が明らかにされた。

2) 小学生を対象としたゲームにおいて、一例としてV-CT-VからV-HT-Vへの変更は、第3触球者へつながる割合は変わらないが、V-HT-Vの方が第3触

球者までつながった際の返球率が高値を示した。このことは、V-CT-VからV-HT-Vへの変更は、CTはキャッチスロー後にトスというボレーによるボール操作を含む一方、HTはキャッチの動作に近くなるため、安定したボールを第3触球者に供給することができることから、第3触球者が返球に成功する数が増加するゲームに変化したと考えられた。

3) 対象としたゲームの様相を便宜的に設けた基準で整理し、ゲームの難易度をとらえた結果、V-V-V, V-CT-V, V-HT-V, V-CS-V, CS-V-V, CS-CT-V, CS-CS-Vの順に易しくなることが明らかにされた。

4) 小学校高学年を対象とした体育授業において、柄堀らによる味方の技能展開²⁾を考察視座に、高めたい技能ごとに単元構成を検討した。その結果、「守りの技能」においては、単元前半をCS-V-V、単元後半をV-HT-Vへ、「攻めにつなげる技能」は、V-HT-VからV-CT-Vへ、「攻めの技能」は、V-CS-VからV-HT-Vへ変更して単元構成することが望ましいと考えられた。

4. 結論

本研究では、ボレーによるボール操作の困難性をルールの変更によって軽減させた計6種類のゲームにおいて、ルールの変更がゲームに与える影響を明らかにした。また、その結果に基づいて整理された難易度をもとに、高めたい技能ごとの単元構成の試案を示した。

5. 主な参考文献

- 1) 後藤幸弘他(2009), ボレー系球技(サッカーとバレーボール)の技能評価法について, 科学研究費研究成果報告書「保健体育科の教育内容の精選と絶対評価基準の作成-球技と陸上競技を対象に-」, pp. 27-37.
- 2) 柄堀申二(1997), バレーボールの学習指導と教材研究, 不昧堂書店, p. 25.